談 話 室

生物物理学会欧文誌の発行について

龍谷大学理工学部 葛西道生

2005年1月から日本生物物理学会ではインターネットだけでしか見ることができない英文の論文誌を発行することになりました。これはe-Journal とよびますが、雑誌の正式の名前は *BIOPHYSICS* です。

この欧文誌を発行することになった経緯は石渡信一会長が本誌の8月号でお知らせしていますが、簡単に述べてみます。欧文誌の発行は日本生物物理学会の設立時から懸案でしたが実現しませんでした。そのなかでレビュー誌として *Advances in Biophysics* の発行がありました。また、1996年から日本生理学会が発行している欧文誌の *Japanese Journal of Physiology* (JJP) のなかに *Biophysics* のセクションを設けてもらって、生物物理学会からの投稿を歓迎してもらうことになりました。そのため私が *Biophysics* 担当の Section Editor として編集に参加しています。そのような関係もあって、昨年度柳田敏雄会長から新しく作る e-Journal の編集委員長をやってくれないかという依頼があり、引き受けることになりました。Editors-in-Chief には私と柳田氏になる予定です。

Editorial Board メンバーは学会の出版委員会で決まりましたが、日本の研究者のほかに東アジア生物物理会議のメンバー国、オブザーバー国からも推薦してもらうことにしました。また、Advisory Board メンバーとして生物物理分野別専門委員会の方に参加をお願いすることにしました。

e-Journal は、regular articles のほかに review articles と notes から構成することになっています。regular articles は通常の original paper ですが、notes としては新しい技術や短い報告などを掲載します。この雑誌は印刷はしませんが、インターネットからダウンロードした PDF ファイルをプリントすれば印刷された論文と同じようになります。その形式は *Nature* と同じ A4 サイズの2段組です。また、e-Journal の特長を活かして、カラーの図表のほかに、動画も PDF ファイルに含めた図にリンクして表示することができます。回転するモーターの表示や立体画を回転させて見ることもできるようにになります。

最近の論文の傾向として、印刷された媒体も見ますが、電子媒体を通して情報を得るのがますます盛んになってきました。電子ジャーナルにすることのメリットとして科学新聞に以下のような記事があります。細胞生物学会誌 (*Cell Structure and Function*) は紙媒体の時の読者は97%が日本人だったが、電子ジャーナルにして世界のデータベースとリンクを張ったところ、読者の92%が外国からになったそうです。また、日本化学会 *Chemistry Letters* の例では紙媒体の時は3000部配布していたうち海外は700部にすぎなかったのが、電子化して2年で100万アクセスになってそのうち70%以上が海外からとなっているそうです。このように電子ジャーナルを発行することによって、外国からも自由にアクセスしてもらえれば、日本からの情報発信となり、日本の科学の発展に大きく貢献することが期待できます。また、accept されてから掲載までの時間を短縮できるのもメリットです。

日本から世界に向かって発信する新しいジャーナル *BIOPHYSICS* に皆さんの投稿を歓迎します。投稿規定を本号学会ニュース欄の最後と学会のホームページ (<http://www.biophys.jp/>) に掲載します。なお、JJP の *Biophysics* の section もそのまま残っており、論文は紙媒体だけではなくインターネットでも公開していますので、こちらへの投稿も続けて下さい (<http://www.soc.nii.ac.jp/psj/jjp/jjphome.html>)

Publication of English Journal by the Biophysical Society of Japan

Michiki KASAI

Department of Materials Chemistry, Faculty of Science and Technology, Ryukoku University

葛西道生(かさい みちき)
龍谷大学理工学部物質化学科 教授
連絡先: 〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1-5
E-mail: kasai@rins.ryukoku.ac.jp